

Tax haven(租税回避地)

タックスヘイブンで課税逃れができるカラクリ

たとえばAという会社がある。

もちろん売上(利益)があがればその一部を税金(法人税)として国に納めなければいけない。これが一般的にちゃんと納税してる会社なんですけど……。

その一方で、Bという会社はがっばり儲けたにも関わらず、「税金で持ってかれるのはイヤだな…」ってときに、タックスヘイブンに会社の利益を移せば、法人税0%(もしくは低税)

Tax haven(租税回避地)

あくまで税金がかからない or とても安い場所を意味するわけだ。
税金がかからないように“逃がす場所”っていう認識でもいい。

heaven(ヘブン)天国って意味じゃないですよw

haven(ヘイブン)あくまで“回避地”って意味になります。

ただ、それによってけっきょく税金を払わないですめば、その人にとっては天国みたいなもんですが……。

日本などでは会社に対して法人税がかかりますが、世界には税金がかからない場所もあるんですよ。

有名どころでは、パナマ、イギリス領ケイマン諸島、バージン諸島といったカリブ海の島国が挙げられますね。

では、実際にどうやったら、そういった場所にお金を移せるのか？
そのカラクリがペーパーカンパニーをつくるということ。

タックスヘイブンに会社をつくりたいんだけど、というと、「じゃあ代行しましょう」といってペーパーカンパニーをつくってくれる法律事務所があるんです。

会社登記といって、法律事務所がペーパーカンパニーを登録してくれるわけなんです。

ただ実際に、そんな遠い外国に会社をつくって営業しても、売上が上がるとは限らないし、そんなところに社員を置くのも面倒。

だから営業もしていない、社員もいない、名前だけの会社をつくる。
こんな会社でも税金が優遇されるんだから首をかしげたくなるw

では、どうやって日本で儲けたお金を法人税が安い国へ移動させるのか？

たとえば、親会社がペーパーカンパニーとして子会社をつくり、その子会社からモノを買うという名目でお金を払います。あるいは子会社へお金を貸し付けるという方法を取ります。

そんなふうに、あくまでペーパーカンパニーである子会社の儲けてことにして、親会社が儲かったかなりの部分をそこに移せば、そこでは税金を納める必要がない。

結果的に親会社の利益は下がり、帳簿上では少ない利益しか出ないので、日本で払う税金は安くすむということになる。

今の社会では厳密には違法と言い切れないグレーな方法といわれている。

なぜなら、これが正規な取引として、「子会社にお金を渡したんだ」とでもっておけばいいんだから。それであれば節税になるからですよ。

これまでタックスヘイブンを利用して、課税逃れをしてきたお金持ちを世界各国で取り締まろうとはしてきたんですが、なかなか上手くいかなかった。

なぜか？それは「**秘密保持**」っていう鉄の掟があったから。

一部の場所を除いてはだけど、秘密を守ってもらえるわけだから、「じゃあそこにお金を隠しておけば安心だよな」ってなるのだ。

ただ、秘密を守ってもらえることをいいことに、悪い人たちも手を出しているから大問題。それが**マネーロンダリング**というもの。

悪事などで得た表では使えないお金を、タックスヘイブンへ経由して、真つ当な事業で得た資金のように見せかけて活動資金にするんです。

マネーロンダリングってのは、汚れたお金をキレイにする、**資金洗浄**ともいいます。

ですが、秘密は守られてると思ったら、パナマの事務所から情報が流出してしまったので、それが大騒ぎになってるんです。

それが話題になった**パナマ文書**ってやつです。

アイスランドの首相がタックスヘイブンを利用してたことにより、合法であるにも関わらず、辞任に追い込まれたニュースがありました。そもそも一国の首相がそういうところに手を染めてたら道義的に許せないだろうってことで辞めたんですね。

ちなみにパナマ文書っていうけど、実は紙じゃなく、会計書類や電子メール、音声ファイルなどのデータをさします。

というかタックスヘイブンの国は税金を安くしてメリットはあるのか？国の財源はどうなってるのか？ということについて。

だいたい小さな島国で観光以外に主な収入が無いようなところがこういうことをやると、会社を登記するときに登記料っていうのを取ります。

その手数料こそが、その国・地域の収入になるということです。

ペーパーカンパニー設立こそが、その国の大事な財源ってことですね。

だから悪用されてる可能性があったとしても止めるワケにはいかないんです。

このタックスヘイブンについて、あなたはどう思いますか？